



THE ACCESS AND  
DELIVERY PARTNERSHIP

## アフリカの子どもたちに、 住血吸虫症のない未来を

UNDPが主導する「新規医療技術のアクセスと提供に関するパートナーシップ (ACCESS AND DELIVERY PARTNERSHIP:ADP)」は、日本のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)と人間の安全保障に関するビジョンに支えられ、アフリカ諸国と協力し、就学前児童を対象とした住血吸虫症の新たな治療オプションの試験導入と拡大準備を進めています。

2025年11月

タンザニアのビクトリア湖沿岸では、親たちは静かな不安を抱えています。子どもたちが遊びや入浴に使う水が、住血吸虫症に感染する危険をはらんでいるからです。

住血吸虫症は寄生虫によって引き起こされる顧みられない熱帯病(NTD)で、世界で2億5千万人以上が感染しており、そのうち5千万人以上はサハラ以南アフリカの就学前児童です。この病気は慢性的な痛みや認知発達障害、成長阻害を引き起こし、時には救えるはずの命を奪うこともあります。

長年、就学前児童には安全で年齢に適した治療法がありませんでした。しかし、日本の支援を受け、グローバルヘルス技術革新基金(GHIT Fund)と国連開発計画(UNDP)が主導する「新規医療技術のアクセスと提供に関するパートナーシップ(Access and Delivery Partnership:ADP)」のパートナーシップのもと、この長年の課題が解決に向かっていきます。就学前児童を対象とした住血吸虫症の新しい治療選択肢「アルプラジカンテル」が、いま必要とする子どもたちに届き始めています。



「私たちは住血吸虫症で多くの命を失ってきました。就学前児童向けの新たな治療選択肢が利用できるようになれば、本当に大きな安心です。」

— チャールズ・ボニファスさん(タンザニア・センゲレマ地区出身の父親、漁師)

## 世界初:ADPと連携し、タンザニアが就学前児童向けの新たな住血吸虫症の治療オプションを承認

2025年9月、タンザニア医薬品・医療機器規制当局(TMDA)はアルプラジカンテルの国内での販売を承認し、世界で初めてこの就学前児童向けの治療オプションの使用を認可しました。この背景には、ADPとTMDAが密に連携し、世界保健機関(WHO)の共同登録手続き(SRA)を活用して承認までの期間を大幅に短縮した成果があります。

タンザニアによるアルプラジカンテルの承認は、日本の支援によって実現しました。この支援は、新しい医療技術の研究開発と、必要とする人々へのアクセス改善の両面を後押しするものです。アルプラジカンテルの開発は、メルクKGaA(ドイツ・ダルムシュタット)が主導する「小児用プラジカンテル・コンソーシアム」によって進められ、日本の資金援助を受けるグローバルヘルス技術革新基金(GHIT Fund)と欧州・途上国臨床試験パートナーシップ(EDCTP)の協力のもとで実現しました。現在、UNDP主導のADPがその普及を支え、就学前児童への治療アクセスを広げています。

アルプラジカンテルの開発は、子どもたちの生活を大きく改善する可能性を秘めています。しかし、それが本当に必要とする子どもたちに届かなければ意味がありません。日本によるADPへの継続的な支援は、この革新的な治療をより多くの子どもの健康と成長につなげるために欠かせない力となっています。

<sup>1</sup> 「新規医療技術のアクセスと提供に関するパートナーシップ(Access and Delivery Partnership:ADP)」イニシアチブは、結核やマalaria、NTDsという、貧困層が不当に影響を受けている病気から命を守る医療技術(ワクチン、医薬品、診断ツール)に対する公平なアクセスの拡大を目指し、低・中所得国に政策やシステム、能力の強化の支援を提供しています。このイニシアチブは、日本政府の資金提供を受け、UNDPの主導のもと世界保健機関(WHO)、熱帯病研究・訓練特別計画(TDR)、PATHと連携して実施しています。



From  
the People of Japan



タンザニアで行われているADP支援のベースライン調査の一環として、アンジェル・マイケルさんが子どもの尿と便の検体をコミュニティ・ヘルス・ワーカーに届けている様子。



「雨が降ると、水が水田にたまり、子どもたちはそこで遊ぶのが大好きです。子どもたちが住血吸虫症のような本当に危険な病気に感染するのを防いであげたいと思っています。」

－ アンジェル・マイケルさん(タンザニア・イティリマ地区カバレ出身の母親)

タンザニアでの迅速な規制承認にとどまらず、ADPIはアルプラジカンテルのパイロット導入を6カ国でスタートし進め<sup>2</sup>、各国の保健プログラムやパートナーと協力して、新しい治療選択肢の提供にかかる計画や調整を行っています。タンザニアでは、国立医学研究所(NIMR)と連携し、18か月間でイティリマ、センゲレマ、キゴマの各地区で25,000人以上の就学前児童に治療を届ける予定です。タンザニアで得られる教訓は、今後の各国のアルプラジカンテルの展開戦略の策定の参考とされます。

アルプラジカンテルの導入に必要な実装研究の一環として、ADPIは2025年1月に寄生虫学的評価のためのベースライン調査を支援しました。この調査には1,000人以上の就学前児童が参加し、疾患の有病率と感染強度に関するデータを収集しました。これらのデータは、治療の必要性を判断し、アルプラジカンテルの導入計画を立てるうえで不可欠です。

また就学前児童に対する住血吸虫症の早期治療が社会や経済にもたらす価値を明らかにするため、ADPIはタンザニアで費用便益分析を行いました。予備的な結果では、アルプラジカンテルの集団投薬を、既存のNTD予防・管理プログラムに組み込むことで、健康と発達の両面で大きな効果が期待できることが示されています。

さらにはADPの支援を受け、NTDプログラムのコーディネーターや地域住民はAIを活用したカタツムリ識別アプリの試験運用を進めています。この取り組みにより、地域の監視体制が強化され、住血吸虫症の感染ホットス



ポットを早期に特定するための重要な知見が得られています。

ADPIは、住血吸虫症の診断とリスク管理を強化するための補完的な施策についても、各国と連携しています。具体的には、女性生殖器住血吸虫症のケアを包括的な保健プログラムに統合すること、ポイント・オブ・ケア診断機器として超音波検査を試験導入すること、そして監視と対応におけるデジタル技術の活用を拡大することが含まれます。

<sup>2</sup> ウガンダ、ガーナ、ケニア、コートジボワール、セネガル、タンザニア



「病気になると、日常生活や仕事、収入に大きな影響が出ます。農場で作物を育てる代わりに、治療を受けたり、病気の子どもの看病に時間を割かざるを得なくなるのです。」

— ジュリウス・ジョハキム・タンビリジャさん(タンザニア・センゲレマ地区ムラガ村 村長)

## 未来への展望:数百万人の子どもの健康と成長を支えるために

アルプラジカンテルの初期導入国で得られる経験は、アフリカ全域への展開に向けた実践的なモデルとなります。この取り組みにより、各国政府とそのパートナーは、アルプラジカンテルの導入に関する意思決定を支える確かなエビデンスを手にすることができるからです。

ADPIは、UNDPの広範な現地ネットワークと、政府、地域社会、国際機関、民間セクターとの強固なパートナーシップを活用し、デジタル技術やAI、調達、資金調達、サプライチェーン管理に関する重要な能力とシステムを強化しています。こうした取り組みにより、アルプラジカンテルの大規模な普及を支える体制を整えています。

ビクトリア湖沿岸の親たちにとって、アルプラジカンテルのもたらす変化はすでに大きな意味を持っています。子どもたちが予防可能な病気の脅威から解放され、健やかに成長し、学び、未来を描ける日々を想像できるようになったのです。



「就学前児童のための新たな治療オプションが使用できることは、子どもの住血吸虫症感染を減らし、最終的には根絶できる可能性につながり、大きな希望をもたらします。」

— ングワシ・ドット・ハガさん(タンザニア・カバレ村の医療従事者)

アルプラジカンテルを生み出したイノベーションと、それを必要とする人びとに届ける仕組みの両方を支援することで、日本はすべての子どもがUHCへの道から取り残されないようにし、最も若い子どもたちにも、健康で希望に満ちた未来を描ける力を届けています。UNDPが主導するADPIは、様々なパートナーと共に、今後この取り組みを支える役割に努めていきます。



## 日本のグローバルヘルス・ビジョンを支える UNDPの取り組み

2013年以来、日本政府はUHCと人間の安全保障のビジョンに沿って、結核、マラリア、NTDsの撲滅に向け、2つの相互に関連する革新的なプロジェクトの支援を続けてきました。

GHIT Fundは、結核、マラリア、NTDsを含む疾患に対する新しい医療技術の開発を促進し、研究とイノベーションを後押ししています。一方、ADPIは、低・中所得国で利用可能になった新しい医療技術へのアクセスを確保するため、基盤能力、制度、政策の強化をサポートしてきました。

ADPIは、住血吸虫症の治療に対するアクセスを強化するだけでなく、日本の優先課題であるUHCと人間の安全保障の向上に貢献する成果を、各国政府やパートナーとの協働によって積み重ねています。UNDPが主導するADPの近年の主な成果：



薬剤耐性結核治療の展開能力を24のアフリカ諸国で強化し、2018年以降、治療カバレッジを2倍に拡大。



13カ国でマラリアワクチンと季節的予防治療を統合的に提供し、リスクのある就学前児童5,400万人にマラリア感染予防を提供。



アフリカにおける医療規制能力の強化と調和を推進し、対象国での承認までの平均期間を2年から7か月に短縮。これにより、安全で有効な医薬品へのアクセスを数百万人に迅速化。



南南協力を活用し、91カ国でデジタルヘルスなどの分野でイノベーションを加速し、新しい医療技術へのアクセス改善を実現。



### お問い合わせ

ADP公式ウェブサイト: <https://adphealth.org/>  
メールでのお問い合わせ: [info@adphealth.org](mailto:info@adphealth.org)

### ソーシャルメディア

✕ ADP\_health

📌 [accessanddeliverypartnership](https://www.instagram.com/accessanddeliverypartnership)